TOPICS

奈良県が魅力ある「奈良の土産物」開発を支援

現在、全国各地で観光による地域活性化への取り組みが進められている。「宿（やど）」「食」「温泉」「景色」など観光地の魅力にはいろいろあるが、その地の土産物も観光地の大きな魅力になりうる。

奈良県では、3 年後に迫った平城遷都 1300 年記念事業に向け、観光客に魅力ある土産物を提供できるよう、平成 18 年度より「奈良の土産物創出事業」として、魅力ある奈良の土産物商品の開発を進めてきた。本年 1 月に、開発中の新商品試作品 13 品が発表された。

1．「奈良の土産物創出事業」の概要

奈良の魅力向上策の一つとして平成 18 年度から始まった県の事業。平城遷都 1300 年記念事業に向けて、「観光客が欲しがる商品を作りたい」と考えている、やる気のある事業者を県が支援することで、魅力ある奈良の土産物を観光客に提供することをねらいとしている。

応募のあった 32 事業者の中から 13 事業者が選ばれ、デザイナーや販路の専門家などの指導・助言を受けながら、新商品開発や既存商品のリニューアルが進められてきた。また、並行して奈良県立大学と連携したモニター調査も行われた。

今回発表された新商品試作品 13 品は、1 月下旬以降東京の県代官山 i スタジオなどで行われた展示を受けてさらに改良を施したうえ、4 月以降県内の土産物店を中心に本格的な販売を開始する予定。

2．新商品試作品〔商品名（事業者名、価格）〕

①大和鈴（青垣授産所、500 円）

奈良の仏像をモチーフに、土鈴が持つ素朴さを生かしつつ若者的な味付けの新しい商品を開発した。

②香り立つ大和（赤膚焼窯元　大塩昭山、1,050 円）

大仏様や鹿などをモチーフに若者達にも人気のあるお香立てを開発。赤膚焼の風合いとデザインでアジアンな雰囲気やエスニック感を表現した。

③鹿鳴♪盃（柳生焼窯元　井倉敏夫、1,500 円）

吸うと「ピーッ」と鳴り、奈良の神鹿の鳴き声を連想させる。盃の外側には鹿のレリーフ、見込み（盃の中）には奈良の県花「さくら」の花びらを散らし、奈良らしさを表現した。

④鹿の木製おもちゃ
（ギャラリーあぜくら、1,000 円～3,000 円）

奈良の鹿をモチーフにした、安全で安心な木製おもちゃ。洗練されたデザインと木製玩具ならではの、ほのぼのとした動きにこだわっている。

⑤青丹よし 曲水の宴（御菓子司・鶴屋徳満、
「青丹よし」10 枚入り 2,100 円、「曲水の宴」6 枚入り 945 円）

創業以来百有余年、老舗が素材・製法にこだわり作り続けてきた和菓子のパッケージデザインを一新した。

⑥クッキー「あかい奈良」

（グループ丹「あかい奈良」、1,000 円）

奈良県特産の大和茶（粉葉）、柿、奈良漬を題材として 3 種類の味と形に仕上げた。パッケージは“活力ある奈良”をイメージできるように赤を基調とした。

⑦大佛せんべい（岡﨑松光堂、12 枚入り 315 円～）

平城遷都 1300 年記念事業に向け、若者にもアピールできるよう、今回、焼き印を楽しい雰囲気にあらためた。サクサクとした軽い食感も追求。

⑧ふふふのふぅちゃん（千葉製麩商店、500 円）

「おいしく食べられて体にやさしい」をテーマに、ヨモギやイカ墨を生地に練り込み、丁寧に焼き上げた新しい「麩」を作った。

⑨宝石（塔の茶屋、価格未定）

正倉院宝物のガラス玉の形態を模したあめ玉。手づくりならではの輝きと、パッケージデザインも含め格調の高い奈良らしさを追求した。

⑩らほつ　金の黒ごままんじゅう

（丸福もりもと、価格未定）

東大寺の大仏様の「らほつ」を模した乳菓。口溶けの良い生地で香ばしい黒ごま餡を包み、金粉をほどこして高級感を高めた。黒を基調としたパッケージングで奈良の歴史性を表現した。

⑪大和おづる（麺匠の勝太郎、700 円）

いにしえの都人に思いを馳せながら、素麺のルーツとも言われる索餅の“ねじり”を残すことによって生み出した新商品（乾麺）。

⑫チャッピー岡本のカブリモノ変心塾＜奈良のカブリモノ＞（イメージマーケット、1,300 円）

誰にでも楽しく簡単に紙でカブリモノを作ることができ、奈良の文化に親しんでもらえる制作キット。

⑬阿倍仲麻呂（前田製菓、価格未定）

奈良時代に遣唐使が唐の都に土産として持参したといわれる「和同開珎」と当時の平城京を偲ぶ「平城京古代瓦」を彫り型にし、焼き上げた大判せんべい。

■照会先

奈良県商工労働部商工課地域産業振興係
Tel:0742-27-8804
URL:http://www.pref.nara.jp/syoko/